

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300427		
法人名	株式会社 讃光		
事業所名	グループホームくすの木		
所在地	木田郡三木町池戸2362番地		
自己評価作成日	平成29年10月28日	評価結果市町受理日	平成30年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が進み、常に見守りや付き添いのいる方や車イスの御利用者様が増えていますが、出来る事を見つけて手伝ってもらい、一人ひとりが役割を持ち生活できるよう支援しています。また、御利用者様一人一人のペースに合わせて援助し、個々に合った支援を心がけ、笑顔で暮らせ、その人らしい生活が穏やかに送れるよう支援しています。協力病院も24時間体制でバックアップ体制が整っており安心して生活していただけるようになっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

1・2階に各ユニットがあり、南面には大きなガラス戸があり明るい日差しが差し込み、リビングは広く開放な空間である。利用者は日当たりの良い居場所につどい、思い思いに過ごされており、職員は明るく元気で利用者達と談笑している。法人では職員教育や働きやすい環境づくりに注力され、職員が安心して働けるようバックアップがなされている。医療面では、母体の協力病院が24時間体制で利用者を受け入れる体制が整っている。地域住民やご家族等とコミュニケーションをとりながら安心して暮らせるよう、取り組みがなされている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成29年12月21日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年初めに全職員で話し合い、理念や方針を踏まえて年間目標を立てている。目標に向かい日々介護支援に取り組み、常に意見交換を行っている	会社としての理念や方針に基づき、年間目標がグループホーム各ユニットで考案され、全体の会で発表及び中間期に実践状況が報告されている。また、ユニットでは朝夕の引継ぎに方針を意識した意見交換がなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月ボランティアの訪問があり、御利用者様も楽しみにされ、喜ばれている。天候の良い日は近所の天神さん等に散歩に行き、近所の人とも挨拶を交わしている。くすの木祭りでは、地域の方の参加もあり交流している	ボランティア活動・地域防災・池戸の季節行事・くすの木祭りなどで地域挙げての交流があり賑わっている。日常の散歩時に気軽に挨拶をかわし、車いすを押してくれたりするなど、住民と自主的な関係が構築されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開き、資料等を活用し認知症についての勉強会を行い、理解を深めていただけるように努めている。また、月一回の定例会では、他事業所との意見交換も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日々の生活や行事の様子を写した写真を観てもらい、取り組みや現状の報告をし、意見交換を行っている。参加者からの情報や意見も得られる機会になっている	運営推進会議は民生委員・老人会・町の担当者・包括支援センター職員・防災士など2か月に1回定期的に開催されている。会議録からは馴染みの方が多く、和やかに話し合い、アイデアや意見等もみられる	本人やご家族等の会議への参加が少なく思われます。様々な事情はあると思いますが、会議に参加できるよう工夫を重ね、生活の主体である本人やそのご家族がさらに事業所の在り方や取り組みを理解し、実践していくための良き協力者となることを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月毎に開催している運営推進会議に参加して頂き、支援の取り組みや様子・状況を伝えている。また、町担当者からも情報を得られる機会にもなっている	町は地域福祉サービスの計画者・事業者ともどもに関係性が良好で連帯感が強い。町の担当者や包括支援センターの職員も運営推進会議に参加して双方向に情報を伝えられる関係となっている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会は行っている。月1回、身体拘束の検討会を開き、必要性について話し合っている	月例会にて法人全体で研修が行われている。また、毎月1回は身体拘束の検討委員会を開き話し合いがなされている。玄関やユニット入口の施錠や拘束帯もされておらず、見守りなどにて対応がなされている。成果として、利用者の尊厳の保持と下肢筋力低下の予防に繋がっている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者様に対する言葉使いにも職員間で常に注意をはらうようにしている。虐待についての勉強会は行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の問題が生じた場合は、家族・関係者に連絡を行い対応している。また、勉強会も行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明書にて、わかりやすい言葉で説明し、不安や疑問が無いように本人や御家族様に同意を得ている。また、退去時にも説明し、御家族様の不安がないよう対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様からの要望は日々の会話により伺い、職員間で共有し介護に反映させている。御家族様とは、面会時や遠方の家族には電話にて、近況報告を行い要望・苦情を伺うようにしている	家族の面会が多く、来所時にはお茶を入れ居室などでゆっくり過ごすよう配慮され、職員も加わり意見を伺ったり近況報告の場となっている。利用者の日々の会話等から想いを推察し、職員で共有されている。利用者・家族等の意見は毎週月曜日の管理者会にて検討、報告がなされている。家族会も定期的で開催され良好な関係が築かれている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見・要望は、随時管理者に伝え、毎週ある管理者会議で検討され、運営に反映されている	朝夕の引継ぎや職員からの意見等は毎週の管理者会議にて検討されている。グループホームからも職場の代表者が参加し、伝達や報告がなされ運営に反映されている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成は、職員の希望を重視し毎月作成している。また、全職員が有給を取れるよう努めている。年2回の相互評価を行い賞与等にも反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるよう勤務形態にも配慮している。研修後には、報告を行い他職員にも研修で得た情報等を共有できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の医療施設や施設と情報の交換・共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様や御家族から生活歴や自宅に困っていた事などを伺い、ホームでの生活についての要望や不安を聞き、職員と話し合い支援している。入居後も話を伺い、不安が軽減し安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御利用者様・御家族様から意見や要望を伺うことにより、不安が無くなるように努めている。面会時には御家族様とも信頼関係が築けるよう近況報告を行い、会話を増やすようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・御家族・主治医等と相談して、何が必要かを見極められるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き・洗濯物たたみ・プリンターの水やり等出来ることは、職員と共に会話をしながら行っている。御利用者様にあった役割を持つことで、やりがいに繋がる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、近況報告を行っている。御家族様との外出後には、その時の様子を伺い困ったこと等がなかったか、確認も行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と自宅に外出されたり、家族行事があれば外出し参加される御利用者様もいる。遠方の親類などの面会時には、ゆっくりお話ができるように考慮している	家族と一緒に自宅へ戻り食事をしたり、墓参りや法事に出かけたりされている。同級生の訪問や教え子との交流など地域ならではの関係があり、継続できるよう支援がなされている。また、3か月に1度会報誌が発刊され、遠方のご家族等にもホームの様子がわかるよう努められている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知が進行している方や耳が遠い利用者様には、職員が間に入ることにより、他利用者様とも会話が、成立するように支援している。独歩の方が車椅子を押してくださる等、支えあう姿もみられる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先が施設の場合は、事前に情報を提供している。相談や問い合わせがあれば、その都度対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望などを聞き全職員と情報共有している。また、御利用者様の希望等に沿いながら援助できるよう努めている	日頃の言葉や意見を個別記録に記載し、引継ぎなどで職員間で共有されている。本人の思いや意向を実現するため、介護計画書にきちんと反映し実践できるよう工夫されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に御利用者様・御家族様にインタビューをとり情報の把握に努めている。新しい情報を得た場合は、全職員に申し送りをし、また書類にて目を通し把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援の中で日々の様子観察も行い、御利用者様の変化や築きがあれば、報告し申し送りをして心身状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様や面会時には御家族様と話し希望や意見を聞いている。担当制にしてプランを検討し、話し合い介護計画を作成している	日頃から利用者の話を聞き、家族の面会時には話し合いが行われている。個人記録とケア記録を参考に3カ月ごとに検討されている。本人や家族、職員や医師などの意見及びアイデア集約して介護計画の作成がなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、日々の生活状況を記入して評価している。申し送りノートも活用し全職員が情報を把握し、実践できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族から要望がある場合は、出来るだけ要望に沿えるように、その都度検討・対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊りのボランティアの訪問がある。好きな散歩に行くなど、暮らしを楽しめるように努めている。また、計画を立て、季節に合った外出行事を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医の確認を行っている。協力病院への受診や医師の往診により、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医の確認を行い、かかりつけ医が決められている。また各科の往診も受け入れられている。さらに運営母体の協力病院の受け入れは、24時間体制となっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院があり、何かあれば報告をしている。緊急時にも対応できる体制ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、添書を添え情報提供を行っている。退院時にも添書にて情報を得ている。不明な点がある場合は連絡・確認し、情報交換も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御利用者様の状況や、御利用者様・御家族様の要望や主治医とも相談し対応している。チームで支援出来るように取り組んでいる	入所時には利用者や家族に重度化や終末期の在り方の話し合いが行われ、その後状態が変化することにより主治医とも相談して意向の確認がなされている。看取りの体制は整えられているが、ホームでの看取りの実績はない	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、定例会での勉強会等があり備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間・昼間それぞれを想定し行っている。台風接近時には、土嚢を自治防災組織の方に作ってもらうこともあり、協力体制は出来ている	組織内や地域の各団体の協力体制があり、訓練等ではマニュアルどおりに実践されている。また、他部署には水や食料・燃料・自家発電などが備えられている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し支援するよう努めている。特に、排泄時の声かけや入浴時には、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している	職員は一人ひとりの利用者によく声をかけられている。様子を伺い、話を聴き要望や希望があれば実現できるよう努められている。それぞれに身に着けた衣服は清潔感、季節感があり、きれいに化粧をしている方もいる。また、趣味を生かして植物を栽培されている方等もおられる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活支援をしていく中で、御利用者様の希望等を聞くようにしている。また、レクリエーション等の参加や休憩時間なども御本人の意思に任せ、御本人のペースに合わせた生活が送れるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様一人ひとりのペースを大切に、その人らしく生活をしていただけるよう、声かけ等に気を付けながら援助している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で着用していた服を持参してもらい、その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう援助している。御家族と行きつけの美容室に行くこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで食事をとるようにし、会話も楽しめ、御利用者様の味付けや好みも把握している。食器の片づけや食器拭き等、御利用者が出来ることを職員と共に行っている	ご飯はユニットで焼き、副菜は他事業所より配達され、ユニットにて一人ひとりに合わせた形態にアレンジされている。職員と利用者は同じテーブルで和気あいあいと食事されている。月に1回ユニット内で調理がなされ、利用者は張り切り、完食される方が多い。また、おやつ作りも同様に活気がある。片づけは利用者が率先行い慣れた様子である	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、病歴に合わせ管理栄養士が立てた献立で提供。毎食後には、食事量の確認と記録を行っている。ティータイムを設け水分摂取も、楽しく美味しく頂けるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に、声かけや付き添いを行い口腔ケアをしている。不十分な場合は介助を行っている。夕食後には、義歯の消毒洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、声かけやトイレ誘導を行っている。早めのトイレ誘導を心がけ本人の意思も尊重するようにし、気分を害さずトイレでの排泄回数を増やせるよう支援している	個人の排泄記録をもとに、より早めのトイレ誘導がなされている。職員が必ず付き添い、転倒の予防と排泄の失敗を減らすことに努められている。夜間もトイレ誘導がなされており、ポータブルトイレは主に尿量測定のためのみに使用されている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をあまり摂らない御利用者様には、好む飲み物を準備するなど、御利用者様個々に応じた予防に取り組んでいる。排泄チェック表を付け、排便間隔や量を把握できるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の一人ひとりの状態やタイミングをみながら、本人の意思を尊重し入浴の声かけを行っている。会話をしながらお湯の温度や好みを把握し楽しく入浴できるよう援助している	入浴は基本週2回ということだが、時間があるときには午前午後問わずに、順次入浴している。入浴介助は2人体制行われ、対話しながらゆったり入浴を楽しめる体制にある。家庭的なお風呂場で、楽しみに毎回入浴をする方もいる	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握して本人の希望・状態に合わせて、日中は昼寝をしたり個々に支援している。夜間の就寝時間も個々に応じて対応し異なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時にもらう処方箋を確認し、個々のファイルに保管している。服薬内容の変更時には、申し送りを行い、職員が把握できるようにしている。他病院受診時には状態や処方箋を主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等、それぞれ御利用者様が出来ることを手伝ってもらい役割となっている。レクリエーションでは合唱や歌など御利用者様が好むことを見つけ、取り入れて楽しく過ごせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天日には、御利用者様の希望を聞き、ホーム周辺に散歩に出かけている。また、他施設の職員も見かけると、声をかけてくれたり、車イスを押したりしてくれる。花見や菖蒲見学、初詣など、季節に合わせた外出支援を行い季節観を感じてもらえるよう努めている	天気が良い日には事業所周辺に散歩に出かけられている。車いすの利用者には他部署や町内の方など様々な方から声を掛けられ、手伝って下さることもある。外出は利用者の希望を聞き、他部署や家族に協力してもらい実施しているが、以前に比べ機会が減った方もおられる	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知のレベル低下により現在は、本人がお金を所持している御利用者様はいないが、職員と食事作りの食材を買いに行くことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様に御家族や親族から手紙が来ることがあり大切に居室に飾っている方もいる。字を書くことが難しくなっている方もいるが、年末には年賀状を書き、御家族に送っている。電話は自由に使用できる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾や御利用者がした塗り絵を飾っている。また、日当たりのよい場所にはソファを設置、畳のスペースでは、横になってもらえるようクッション等を用意している。各居室の光や温度は、個々に合わせ調節し配慮している	明るく日当たりの良い所に食堂兼居間の共用空間があり、自然に利用者が集まっている。床は弾力性のある木調床材で統一されている。壁面には利用者の作品や季節感のある飾り物が掲示されている。清潔で温かみのある静かな環境のためのんびりくつろげる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った御利用者様同士が隣の席になるよう配置に注意している。ソファや畳のスペース、その時の気分で好きな場所で自由に過ごせるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを持ち込まれていたり、御家族様が持参された曾孫の写真や家族写真、利用者様が好きな雑貨等を置くことにより、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室入口には姿見があり、窓も大きく明るく見晴らしがよい。タンスは地震対策で固定されている。衣服はフックにかけられ、写真等は棚に置かれ、安全性に配慮した床は足元に障害物がなく安全に移動できるよう配慮がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は、個室で段差もなく、安全でプライバシーが保てるようになっている。バリアフリーのため車イスでも安全である。トイレの場所がわからない御利用者様のために、トイレの表示や矢印を表示している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と年間目標は、年度初めに勉強会を行い、再認識を行い、気分を新たに心掛けています。年間目標は、職員全員で決め、日々の介護につなげ実践している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の誕生会はボランティア慰問があり、交流を行っている。又、利用者の同級生のパイオリンの慰問があり、同級生との会話、交流を行い、良い関係が繋がっている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会では、認知症の勉強会を行い、地域の人と交流、認知症の理解に努めている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営推進委員会では、地域の人、役場の担当者との交流により、結びつきも強くなり、地域の情報もより得やすくなっている。自主防災組織の代表者との交流もでき、より良い関係が出来ている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者と会う機会も多くなり、情報の提供、問題点も話し易くなり、協力関係も築けている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2月には、実地指導を受け、指導により、身体拘束廃止に向け努力した結果、6月には拘束帯全面廃止を行った。現在は職員全員が見守り強化、声かけにて対応。今後も身体拘束しないケアに取り組んでいきたい
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については勉強会を行い職員全員で取り組んでいる。もし虐待がみられた時には、直ちに改善に努めるよう体制もできている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている、利用者様がおられ、職員もごく身近に接する機会があり、必要性は認識している。相談できる体制も整っている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、重要事項説明書にて、本人、家族に分り易く説明行っている。その場で不安点疑問等、を十分に聞き、安心できるよう説明行っている。その後における疑問等はその都度対応行い、本人、家族に説明している
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時には、本人、職員も交え気安く話す機会を設け、意見をお聞きし、介護につなげている。又、その意見を上司に挙げ介護に反映できるよう努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り時に話し合いの機会を持ち、情報の共有を行っている。その時の意見を上司との会議の席で、報告行い業務に反映している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は職員の希望意見を取り入れ、作成している。資格の習得にも力を入れており、向上心を持ち業務を行えるよう職員間で協力する体制が出来ている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会は毎月機会があり、職員は就労後に積極的に参加している。研修参加時も勤務表に組み込み参加できる環境も整い職員間で協力し、研修の発表の機会も設けている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎週、近隣の医療機関や施設の会に参加、職員間で情報の共有を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に知り得た情報の共有を行い、本人家族の不安、要望を職員全員で受け止め、信頼の構築に努めている。朝、夕の申し送り時に気付いた事を話し合い、共有を行っている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面会時に、本人を交え状況を説明し、不安の解消に努めている。家族、本人の要望を十分に聞き、不安感を取り除くよう、話し合っている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	始めてサービスを導入する時は、まず必要なサービスを見極め、家族、本人と話し合い納得が出来るよう、必要なサービスに努めている。変化があればその都度、サービスの変更を行っている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食後の、食器洗浄、食器拭き、洗濯物たたみ等習慣となっており、職員が声を掛けずとも、自ら参加している。職員と一緒に作業を行い、良好な関係が保っている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時に、本人の立場に立ち、対等に接している。くすのき祭りや、イベント時は、家族との絆をより深められるよう、見守り支援を行っている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級生との面会があり、パイオリンのボランティア慰問に来て頂き、会話も弾んでいる。教師時代の教え子がお孫さんを連れ、面会に来られる事もあり、認知症が進んでも、笑顔で対応されている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志は、お互いに困った時は、声かけ助け合う関係もでき、職員に、手助けするよう要請も時々あり、職員も利用者が孤立しないよう、気を付け介助を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は、事前に情報の提供を行い、家族、本人とも十分話し合っている。家族より、要請があれば、継続して、生活支援を受けられるよう、相談できる体制を整えている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の、「家にいる時のように、花が植えたい」との要望があった為、職員と花の種類を考え、プランターに、朝顔、フセンカツラ、コスモス等植え、毎日、水やり、肥料の管理など、張り切って世話をする利用者を見受けた
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に知り得た情報は、全職員で共有し、施設で、安心、安全に生活できるよう援助している
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護時に、体調不良や気持ちの変化等知り得た情報の共有を行い、申し送り時に意見交換を行っている。利用者個々に合わせた対応を行うよう努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、面会時に知りえた情報の共有を行い、その人らしい生活が継続できるよう、話し合っている。プランは担当制で様々な関係者の意見を基にケアプランを作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌では、毎日プラン評価でチェックを行い、出来てない事、しなければいけない事等反省し、より良い介護に向け励んでいる
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護目標にとらわれず、その日に合わせた介護を行い、利用者の要望に沿った介護を心掛けている。介護方法など、職員間で共有出来るよう、話し合っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回は地域の方のボランティア慰問も開催され、利用者は心待ちにされている。商工センターへの散歩は顔なじみとなり、センター職員が車いす介助手伝って頂き、楽しく過ごしている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には、かかりつけ医院や主治医の確認を行い、継続し、受診されている。適切な受診できるよう、協力病院への紹介を行い受診されている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時は、近隣の24時間対応の協力病院で適切な対応により、受診、看護を受ける体制はできている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書により詳しく提供、退院時は看護添書にて、入院時の状況の報告を受けている。職員も時々見舞い時に、本人、看護師と話し合い、声掛けにより、良い関係作りを行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時は、重度化や終末期に向けた対応を本人、家族の要望を聴き、話す機会を持っている。主治医、家族との話し合いにより、要望に沿えるよう援助している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、直ちに主治医に報告、指示を仰いでいる。家族にも直ちに報告、病院受診の連絡行っている。事故発生時は、マニュアルに沿った対応を行うよう勉強会を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災組織の関係者とも、2か月毎に、会う機会もあり、災害時の対応について、話し合いを行い、協力体制もより強くなっている。防災訓練も職員も積極的に、参加している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会に参加し、職員も利用者への声かけ、プライドへ傷つけないよう、気配りを行うようになってきている。職員同士で注意する場面も見受ける
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす時には、利用者が意思表示し易い場面を作り、その都度決めてもらうよう心掛けている。無理強いすることがないように気を付けている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を大切にし、その人らしい生活が続けられるよう、ペースに合わせ、ゆったり過ごせるよう援助し、見守っている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は季節のおしゃれを楽しむよう、職員と一緒に選んでいる。行きつけの美容院へ家族と行き、おしゃれを楽しんでいる。化粧をし、その人らしく生活できるよう支援している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の食事、おやつ作りは、利用者と一緒にメニューを決めている。料理は出来る事は手伝って頂き、楽しく会食を行っている。食後の片付けも一緒にしている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の指導により、栄養管理されている。食事量、水分補給を記録し、体調把握に努めている。日曜日は体重測定を行い体調管理に努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い、実施している。出来ない人は介助を行い全員援助している。夕食後に義歯消毒を行い清潔に生活できるよう援助できている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンの把握をこない、トイレ誘導を実施、失禁予防に努めている。早めの誘導を行いトイレでの排泄を促している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者には、水分補給の回数を増やし、十分摂取できるよう心掛けています。散歩や体操を促し、個々に合わせて対応している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調、希望に合わせ、入浴を楽しめるよう援助している。当日の状況により、午前中に入浴を行う時もある。個々の状態により、入浴回数も多い日もあり、希望に沿うように実施している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、昼寝の時間をとるなど、休息の時間もありゆったり過ごすよう配慮している。居室の照明、温度調整など、本人の希望を聴き調節を行い、安心して過ごせるよう援助している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されて薬は、その都度確認を行い、処方箋の確認を行っている。服薬変更時は、職員全員に周知し、病気の理解に努めている。投薬日には、主治医に、体調の変化等、報告している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活に意欲を持てるよう、その人に合った役割作りを行っている。食後の食器拭き、洗濯物たたみ、等自ら進んで手伝っていただき、コミュニケーションもより増している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣を散歩し、季節を感じてもらえるよう援助している。顔馴染みにもなり、お互いに声かけあうこともある。花見、菖蒲見学、菊花展等、毎年楽しみにされている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつ作り、食事作りの食材の買い物を一緒に行い、ショッピングを楽しんでいる。家族の方と、自分の服を購入し、買い物を楽しんでいる。又、職員が購入する時もある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるよう支援している。家族の方に電話したいとの要望があれば、取り次ぐこともある
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールからは、外の景色を眺めたり、日向ぼっこをされ、のんびり過ごせるよう努めている。窓からは、隣に植えている柿、桃、琵琶等四季折々の果実も実り、季節感も感じられる
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの共有スペースには畳の間に、昼寝されたり、ソファで過ごされている。居室では、ラジオを聴いたり、テレビを観てゆったり過ごされている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、自宅で使用していたタンス、時計等本人が使い慣れた物を使用し、居心地良く生活されている。居室に家族の写真を貼り、心地よい空間造りに努めている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室個室で、プライバシー保護し、自由に生活出来ている。廊下の手すりを使用し安全に移動出来ている。部屋も目印をつけ、本人が分かりやすいよう、自立した生活の援助を行っている